

決算発表説明資料

2017年3月期

第2四半期

- **連結決算(経営成績)**
 - **工作機械関連事業**
 - **受注動向**
 - **輸送機器関連事業**
 - **財政状態**

2016.11.9

エンシュウ株式会社



連結決算(経営成績)

円高等の影響もあり、工作機械業界の厳しさは増しておりますが、輸送機器事業部門の損益改善により、業績は上期、通期ともに概ね計画通りに推移しております。

● 2016年度第2四半期 業績概要

売上高は公表計画（8/9付）通りとなりました。営業利益は、工作機械事業部門が計画を下回りましたが、輸送機器事業部門は計画を上回りました。為替の影響は想定より小さく、経常利益、純利益は概ね計画通りとなりました。

● 2016年度通期 業績見通し

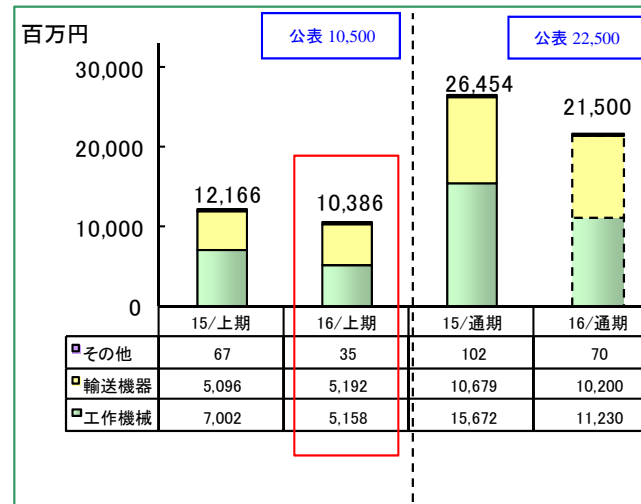
売上高は工作機械事業部門が計画未達となる見通しですが、輸送機器事業部門の改善により、営業利益以下、損益面は概ね公表計画通り推移するものと予想しております。

● 今後の取組方針

当社が得意とするシステム工作機械については、次年度以降の案件の引合いが多く、次年度以降の増収増益を企図して受注拡大に努めて参ります。

【対前年比較(2015~2016)】

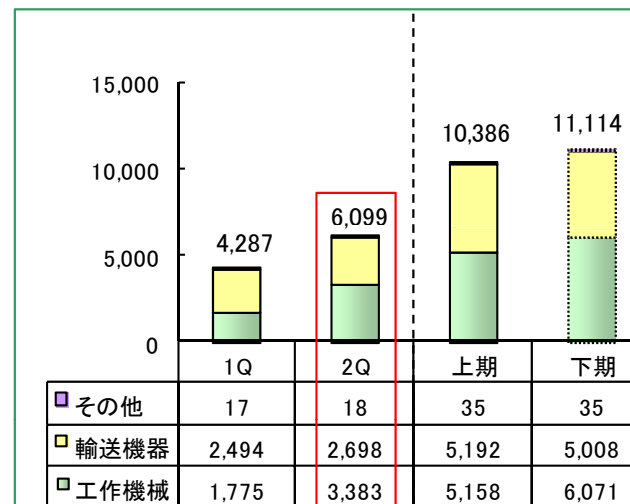
売上高



※16/通期は予測

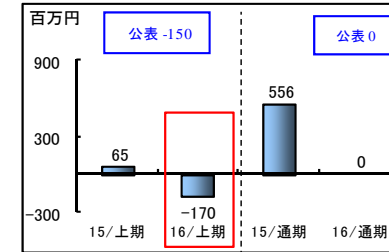
【半期比較】

売上高

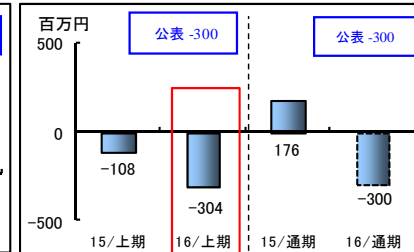


公表=前回業績予想(8/9)

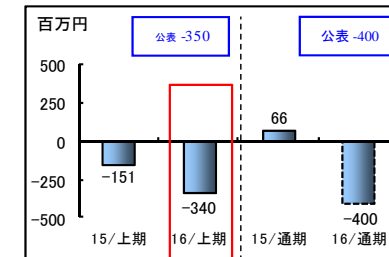
営業利益



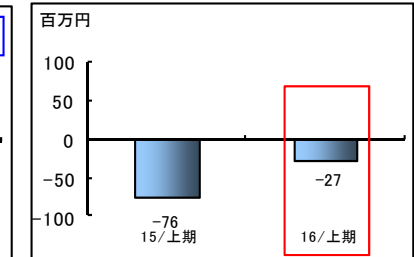
経常利益



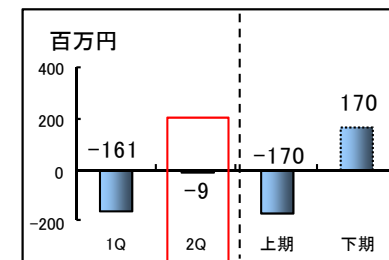
当期純利益



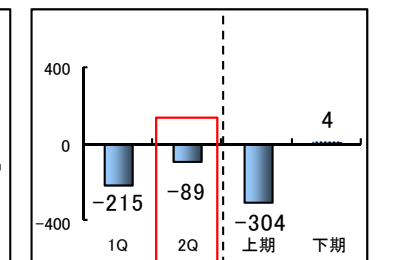
為替損益



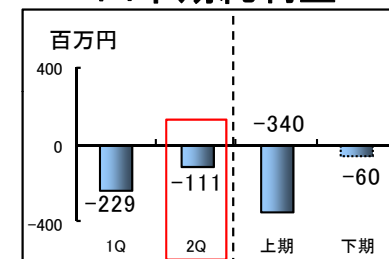
営業利益



経常利益



四半期純利益



工作機械関連事業部門(経営成績)

【対前年比較(2015~2016)】

公表=前回業績予想(8/9)

● 2016年度第2四半期 業績概要

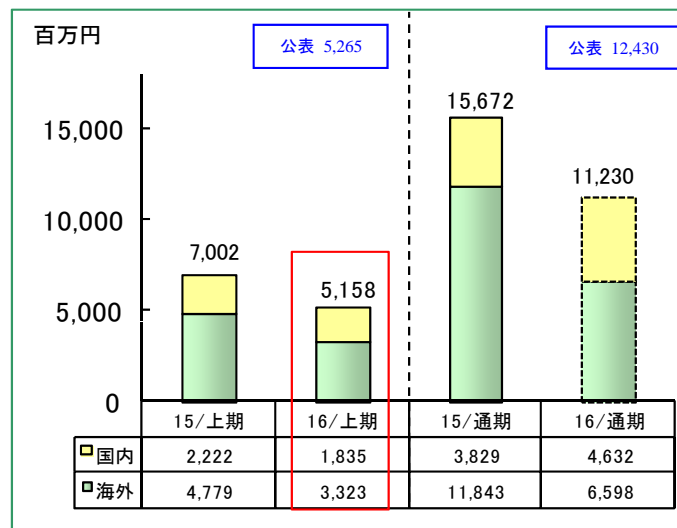
売上高につきましては、今期は大口システム案件がなかったことにより中国向けが大きく落ち込み、北米等の売上増でこれをカバーしきれなかったことから、前年同期比26.3%減となりました。

営業利益につきましては、コストダウン施策およびプロジェクト管理の徹底による効果は継続しているものの、売上高減少の影響が大きく、268百万円の損失(前年同期は205百万円の利益)となりました。

● 2016年度通期 業績見通し

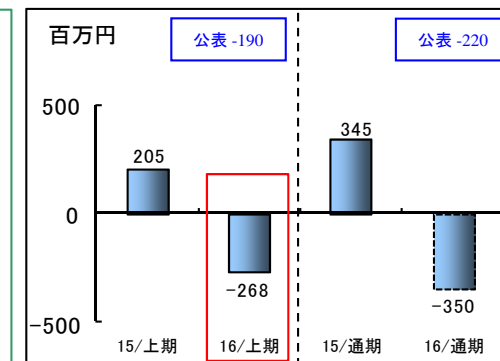
下期の売上高は、欧米中の現地法人の売上増により上期より改善するものの、本社の大型システム案件の売上高回復は来年度にズレ込むことから、通期売上高は11,230百万円(前期比28.3%減)を予想しております。営業利益につきましては、下期は現地法人の損益改善により赤字幅が減少する見通しであり、通期で350百万円の損失(前期は345百万円の利益)を予想しております。

売上高



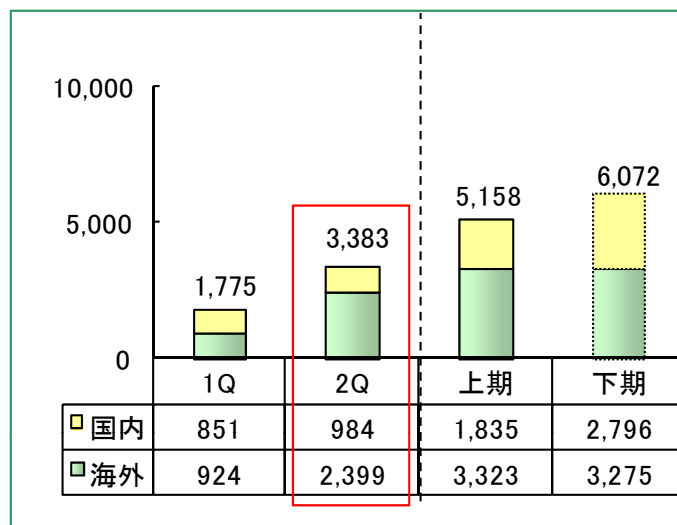
※16/通期は予測

営業利益

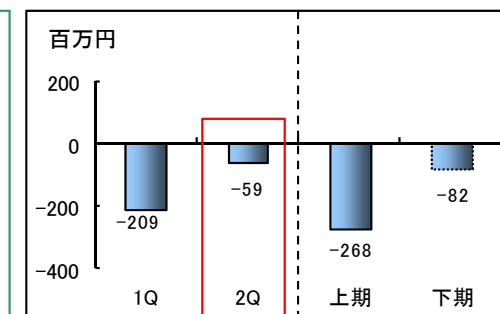


【半期比較】

売上高



営業利益



工作機械関連事業部門受注動向

●受注高

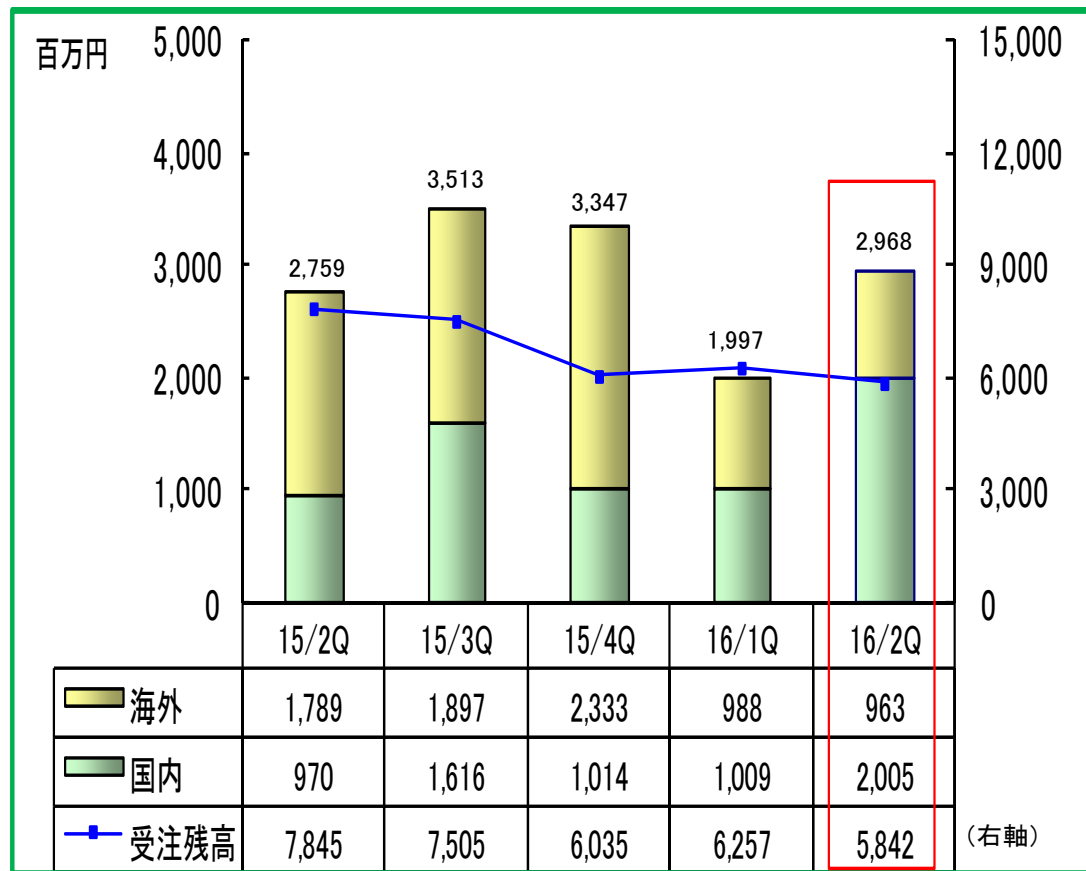
国内および北米への拡販による成果が出始め、受注は回復傾向となっております。中国および欧州を含め、引き続き、受注確保に努めてまいります。

●受注残高

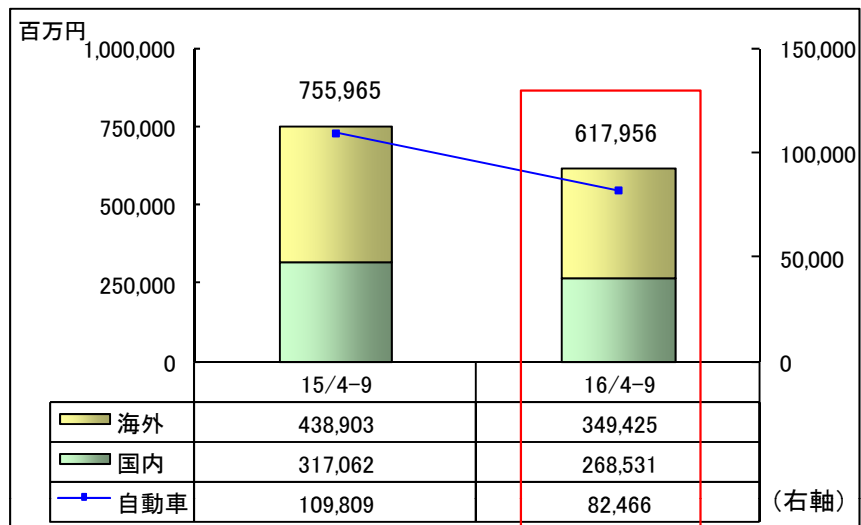
当社が得意とするシステム案件については、来年度以降の案件の引き合いが強く、今後受注残高が改善していく見通しです。

☆ 当社の受注高及び受注残高推移

【四半期推移】



☆ 日本工作機械工業会受注推移

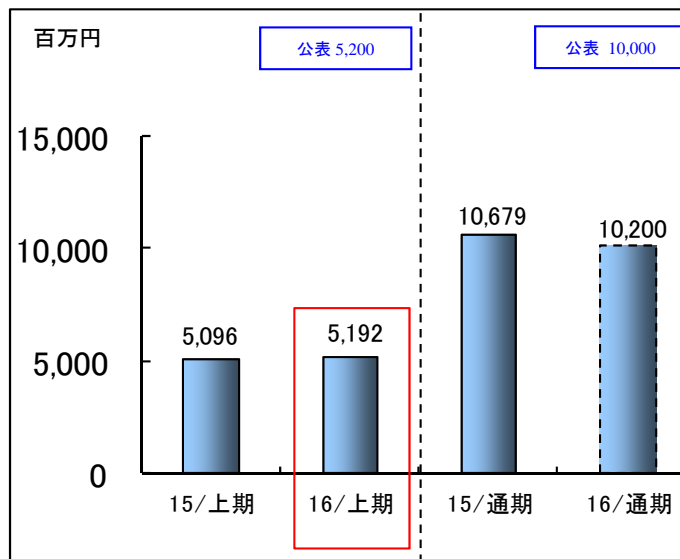


輸送機器関連事業部門(経営成績)

公表=前回業績予想(8/9)

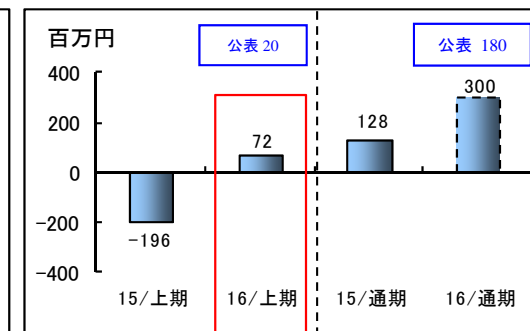
【対前年比較(2015~2016)】

売上高



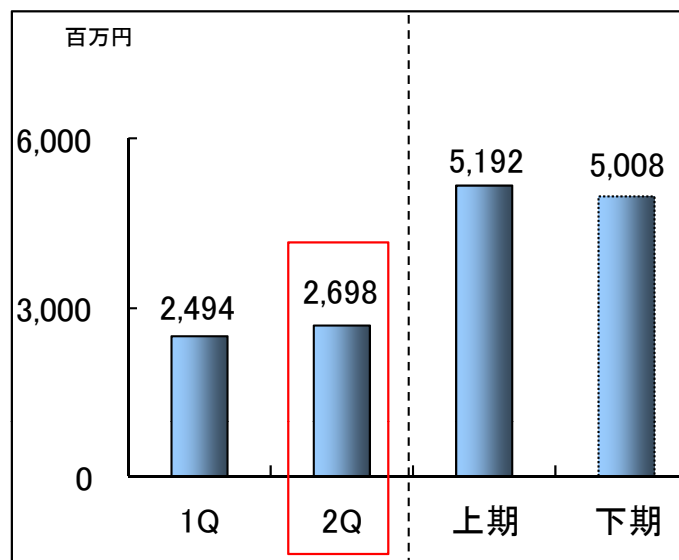
※16/通期は予測

営業利益

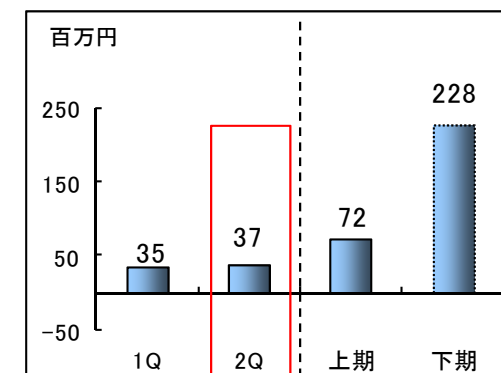


【半期比較】

売上高



営業利益



●2016年度第2四半期 業績概要

国内、ベトナム現地法人ともに安定した売上を維持しており、売上高は5,192百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

営業利益につきましては、ベトナム現地法人の生産が軌道に乗ったことに加え、国内も労務費圧縮に加え、刃具、油、電力量等の変動費コスト管理が徹底されたことにより、72百万円（前年同期は196百万円の損失）の黒字となりました。

●2016年度通期 業績見通し

ベトナム現地法人の生産拡大に加え、国内も安定した収益を見込めることから、売上高10,200百万円（前期比4.5%減）、営業利益300百万円（前期比133.5%増）を予想しております。

財政状態

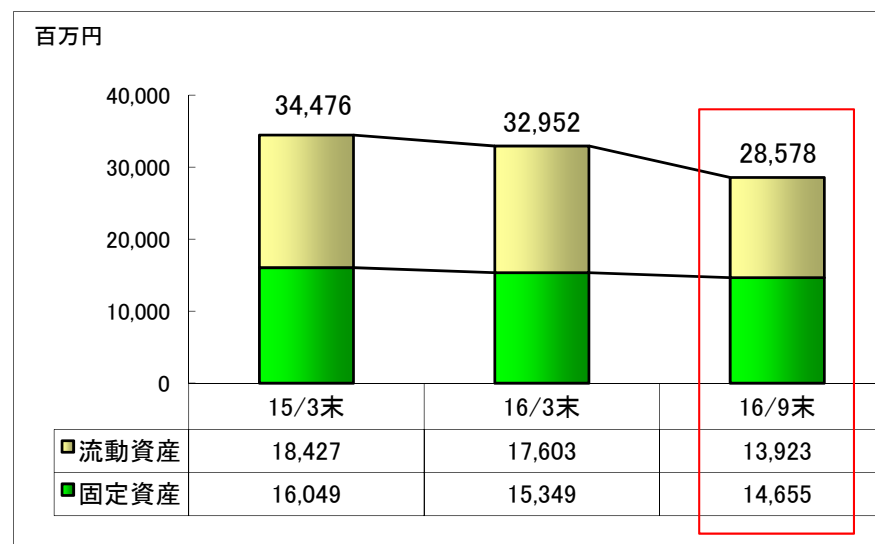
●財政状態

運転資金の圧縮により、バランスシート改善を継続しており、借入金、総資産は減少しております。

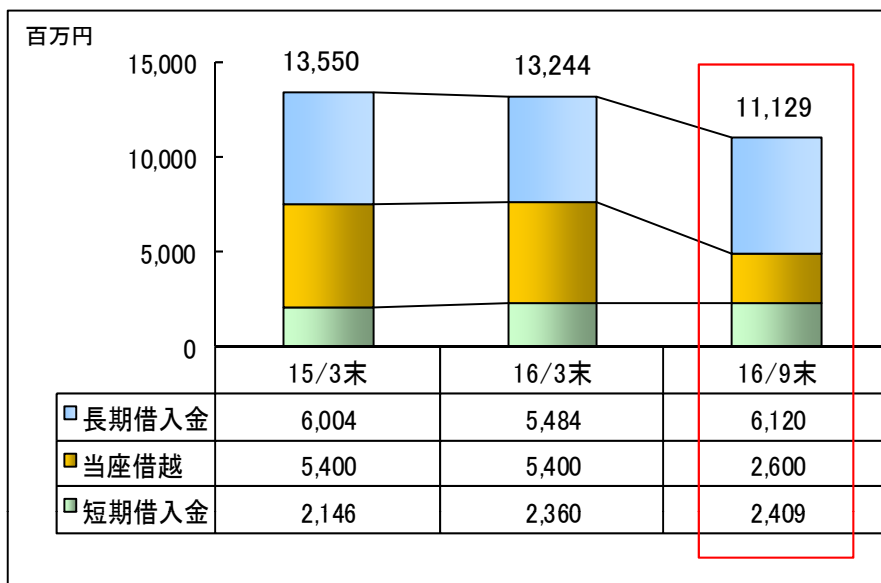
(総資産16/3末比 ▲4,410百万円)

利益剰余金の損失が増加しましたが、総資産圧縮により、自己資本比率は0.7ポイント増加しております。

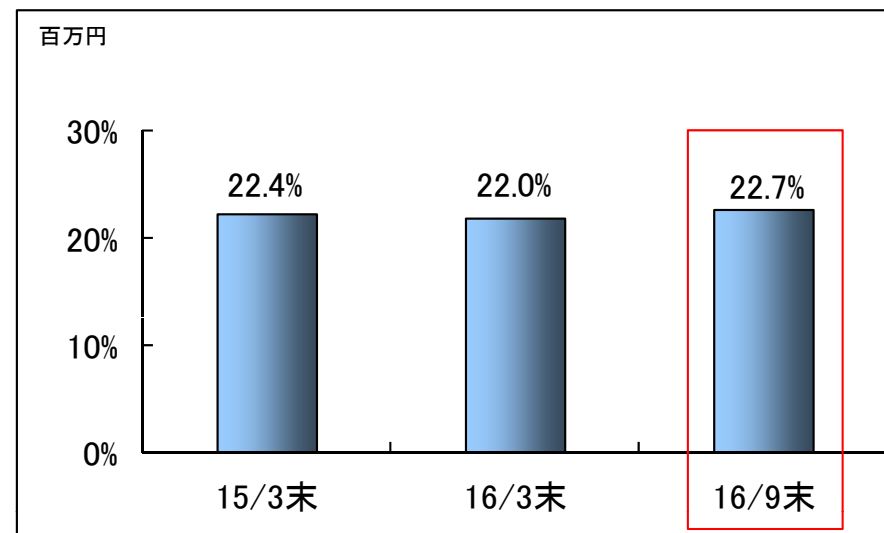
総資産



借入金



自己資本比率



注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。